

岡山県新見市坂本方言の

比喩語について

友定 賢治

はじめに

1. 調査対象地

岡山県新見市は県北西部、中国山地に位置する。県都岡山市から国道180号線で約80kmで2時間ほど、JR伯備線では約1時間ばかりかかる。急激に過疎化がすすみ、現在、人口は2万7千人ばかりになった。豊富な石灰岩を利用しての産業が取り立てられる。調査地坂本は、新見市の中心地から北へ約8km。小さな農業集落で、戸数90戸ほど、人口は400人あまりで、筆者の郷里である。

2. 調査年月日

第一回目 1992年11月20日、 第二回目 1992年12月29日

3. 話者

第一回目 友定奈良子（大正13年生まれ）

第二回目 友定奈良子、 友定常松（大正12年生まれ）、 友定見木夫（昭和4年生まれ）

3人ともに生え抜きで、友定奈良子と常松とは夫婦（筆者の両親）。友定見木夫は分家の主人。何の遠慮もない間柄で、家族同然の付き合いをしている。

4. 調査者・調査場所：友定賢治。筆者の自宅。

5. 調査方法：質問法によった。質問項目以外のものは、☆の印をつけて記した。

I 自然現象

1 日照り雨

テンキアメ、 キツネノヨメイリ

2 入道雲

ニュードグモ、 ユーダチグモ

3 旋風

キリキリミャー

○ キリユー モミコムヨーナ ジョーチャーオ ユンジャロー
カノー。（錐を揉みこむような状態を言うのかねえ。）

ウズマキ

4 霜柱

シモバシラ

5 つらら

カンコーリ

勿論、「金氷」であろうが話者からは次のような説明があった。

○ ナンデ ユン カナー。カンニ ブラサガルケージャー ナカ
ローケード ナー。（どうして言うのかねえ。寒く（の時期に）
ぶら下がるからではないだろうけどねえ。）

カンコーリ

6 北斗七星

ホクトヒチセー

7 鼻

NR

○ シラン ナー。(知らないねえ。)《3人の共通した意見》

8 流れ星

ナガレボシ

II 動物

9 かわはぎ

カワハギ

○ カワハギャー チカゴロ ワシラー シツタグリャー ジャケ
ー ホカニャー ユーマー。(かわはぎは近ごろ私なんか知っ
たぐらいだから他には言わないだろ。)

10 ひらめ

カレー

○ ヒラナナー ミナ カレージャユエテ コノヘンジャヤー ユ
ーケー ノー。シランジャモー。シェーニ ヒラメイヤー
アノ アマゴノ コトー ユーシ ノー。(平らなのは皆カ
レーだとこの辺りでは言うからねえ。知らないから。それに
ひらめと言えば「あまご」のことを言うしねえ。)

山間地である調査地点の事情をものがたる。いわゆる「無塩」の魚はめった
に食べなかった。さらに、溪流にいる「あまご」のことを当地では「ヒラメ」
と言っている。

11 ひきがえる

ヒキンドー

12 青大将

ネズミトリ、 クラノヌシ、 ヌシ

○ クラノ イシガキノヨーナ トケー オッターリ スルワケジャ
ー。ネズミガ オルケージャロー ノー。(蔵の石垣のような
所にいたりするわけだ。ねずみがいるからだろうねえ。)

13 とかけ

ジョーリキリ

○ ジョーリデ タチャーテモ スグ キレル ガ。(草履で《し
っぽを》たたいてもすぐに切れるじゃない。)

14 かまきり

カマキリ

15 みずすまし

ミズスマシ

16 きつつき

テラッコー、 コケラ、 キツツキ

「テラッコー、コケラ」ともに語源については説明がなかった。

17 せきれい

ショキレン

18 ふくろう

フクロー、 ゴロクト

話者からの説明はなかったが、「ゴロクトというのは穀物を明日は晴だから五
斗か六斗を日に干せという意味です。」(広戸惇『出雲方言とその周辺』32P)
とある。

☆ オヤニラミ ○ ヒラメノ コトジャー ノーテ ベツニ オル。タンスイギョガ。
キレーナ サカナジャー。(鮭のことではなくて別にいる。淡水魚が。
きれいな魚だよ。)

☆ スイジンサン あめんぼのこと

Ⅲ 植物

19 ジャがいも キンカイモ
表面がつるつるして丸いものを「キンカ」という。「キンカアタマ」
(はげあたま) など。

ニドイモ

○ ニヘン トレルケー ナー。(二回とれるからねえ。)

カタクリイモ

○ カタクリュー ックリョータガ ナ。(片栗を作っていたじゃ
ないか。)

20 とうもろこし ナンバ、 キビ

21 隠元豆 ササゲ、 ササゲマメ

○ サヤノ アルナー ミナ ササゲジャ ヨータ デ。(莢の
あるのは皆ササゲだと言っていたよ。)

22 そら豆 ナツマメ

○ タウエノ ジブンニ デキルケージャロー ナー。(田植え
の時分に出来るからだろうねえ。)

23 きくらげ キクラゲ

○ ウチラヘンニャー ニャーケー ミン。(この辺りにはない
から見ない。)

24 げんこしょうこ ゲンノショーコ

25 どくだみ イヌノヘグサ

○ ソリャー クシャーカーージャ。(それは臭いからだ。)

26 いたどり シャジッポー、 シャジナッポー

27 からすうり カラスウリ

28 すみれ スモートリグサ

29 春蘭 ジーサンバーサン

話者からの語源説明はなかった。

30 母子草 ホーコー、 タボーコー、 ヤマボーコー、 ネコノミミ(ヤ
マボーコーのこと)

たんぼの畦などにあるのは「ホーコー、タボーコー」で、草餅にする。「ヤマボ
ーコー」と言うのはそれより大きい。それを、形から「ネコノミミ」と言う。

31 合歎木

ウシノコメ、 ウシノゴツォー

○ ウシガ ドーリャー ヨロコンデ クンジャ。(牛が大変喜んで食べるんだ。)

コーチャーギ

「コーチャー」と言うのは、「合歎」の音変化であろうが、話者から次のような言い方もあった。

○ サキニタズ ユー キジャコトナ ヨータ ガナ。(先に立たずという木だなどと言ってたじゃないか。)

IV 性向

32 熱しやすくさめやすい人 アキショー

33 あわてん坊 ソソッカシーヒト

34 動作の鈍い人 チョレーヒト、 チョロクシャーヒト

35 嘘つき センミッツ

キジロー、 キジ

○ キジロー ユーテ ドーリャー ウソツキガ チワリャー オッタ^ンジャ。ヘージャケー ウソツキュー キジロー ユーテ ヨータンジャ。(キジローと言ってひどい嘘つきが千原《地名》にいたんだ。だから、嘘つきをキジローとって言ったんだ。)

36 ほらふき オープロシキ、 オーデンブラ

37 おしゃべり ビチャ (ビチャビチャしゃべるというオノマトベに由来する)

38 冗談言い トッパー、 オードッパー、 ジューハチ

「ジューハチ」は、「トッパー」を「10・8」と見てのもの。「トッパー」そのものの語源は不明。

39 口先だけの人 ネコナデ

40 とんちんかんなことを言う人 トッパー、 ジナクソバーユーヒト

「ジナ」の語源は説明なし。

41 のらりくらりと煮え切らない人 ムギメシガニエルヨーナヒト

○ ブツブツ ブツブツ ナカナカ ニエキラン。(ぶつぶつぶつととなかなか煮えきらん。)

42 怒りっぽい人 カンシャク

43 気むらな人 キガ ヨー カワル ヒト

44 泣き虫 ナキゴ、 ナキムシ

45 おてんば娘 オトコマサリ、 オテンバ

46 腕白坊主 ショーカラゴ (塩辛子)

- 47 じゃぱり シャートラマツ、 デシャバリ
- 48 どこへでも顔を出す人 デシャバリ
 ○ ウマガ ヒョーキューテモ デタガル ユー ガナ。(馬が
 尻をこいても出たがると言ってたじゃないか。)
- 49 家にこもって外出しない人 コモコモ
 「コモコモ」は、蟻地獄のこと。
- 50 小心者 ショートギモ
 ○ ショート ユー トリガ オル ガ。コミチャーノガ。ヘーデ
ジャロー。「ショート」と言う鳥がいるでしょ。小さいのが。
それででしょう。)
- 51 内弁慶 ウチスバリ
- 52 ひとつきあいをしない人 ヘンクツ
- 53 妻に対して頭の上がない男 タイカイノイシ、 カイチューノイシ
 ○ ウクコトガ ニャー。(浮くことがない。)
- 54 けち ニギリ
 ○ コロンデモ イシニャート ツマンデ オキル ユー ガナ。
 (転んでも石ぐらいはつまんで起きると言うじゃないか。)
コビーヒト («コビー」は「けち・こまかい」という形容詞)
ヨクスットー、 ヨクナヒト
- 55 欲張り
- V 食生活
- 56 大食漢 オーガテドリ (大糧取り)、 オーモノグイ
- 57 ぼたもち ボタモチ
- 58 砂糖味がうすい エサオッツァンガ ムコーオ トータ
 ○ エサオッツァン ユンガ カゴ リョーホーエー カチャ
ーデ サト ウッテ アルキョータンジャ。ソノ エサオツ
ツァンガ ウチ ヨラット ムコーオ トータグリャー
ョータ ガ。(えさおじさんと言うのが籠を振り分け荷物に
 して砂糖を売って歩いてたんだ。そのえさおじさんが家に寄ら
 ずに向こうを通ったぐらいだと言ってたじゃないか。)
- 59 塩味がうすい アマチャー (甘い)、 トレ (とろい)
- 60 大酒のみ オロチ、 オードラ、 チュー (アル中)
- 61 酒を飲んでくだをまく スイキョー、 オーズイキョースル
ウダーマク、 グダーマク
- 62 酒に酔って顔が赤くなる。 オードランナル (大虎になる)

VI 動作・様態

- 63 恥ずかしくて顔が赤くなる カオガアコーナル
- 64 どしゃぶりの雨 ミズーウチータホドフル (水をうつしたほど降る)、
- 65 ずぶ濡れ・びしょ濡れ ビショヌレ、 ビショ、 ヌレネズミ
- 66 服装がだらしないさま マエツクリヤーガワリー(前つくろいが悪い)
- 67 髭が伸び放題のさま ブショーヒゲ
- 68 厚化粧をしている人 シロカビョーヌッタヨーナ (白壁を塗ったような)
キツネノヨーナ、 パンダノヨーナ
- 69 背丈の高い人 ノッポ
- 70 出びたい メンコアタマ
○ キデ ツクッタ ベントーバコガ アツタンジャ。 シャク
チート ヨケー ノビヤータヨーナ。(木で作った弁当箱が
あったんだ。酌を少し横に延ばしたような。)《めんこの説
明》
- 71 汗がひたいから流れ落ちる アセガタキンナル (汗が滝になる)
- 72 目を丸くする ソボケタヨーナカオーシトル
「ソボケル」と言うのは、動物が何かに驚いて暴れること。
- 73 口を尖らす ドーキンボーグチ
「ドーキンボー」は、口の尖った、どじょうに似た魚。
- 74 焦げ臭い匂い カッコークシャー
○ クサカリー イクトキノ プトヨケニ カッコ ユーノー
ツカヨータロー。 アレガ ツギュー ヤクケー ノー。(草刈
りに行くときのぶよ避けにカッコと言うのを使ってただろ。
あれが布を焼くからねえ。)
- 75 遠回り ナベノツルーマワル
- 76 末っ子 オトゴ、 オトンボー
- 77 一生懸命頑張る バリキューカケル、 イッチバリキューダス
- ☆ ノーノーサン 人の良い人間
- ☆ チャーゴロー 口先のうまい人間

「チャーゴロー」という、口先のうまい人がいた。「ウミヤコトチャーゴロー」とか「チャーゴローユーナ」(うまいことを言うな)とかよく言っていた。また、その人の家は「チャーゴロ屋」という屋号だった。

[まとめ]

小さな共同体である当方言での特徴は、そこに住む人の特別な行動・性向特徴を、性向語として取り上げた「キジロー」「チャーゴロー」などに認められよう。

(ともさだ けんじ 鳴門教育大学)